

常盤公園活性化基本計画



平成 22 年 5 月

はじめに



「環境・芸術・スポーツ・福祉」の融合した 先進的なモデル公園を目指して

常盤公園は、「日本の都市公園 100 選」「桜の名所 100 選」「美しい日本の歩きたくなるみち 500 選」にも選ばれた緑と花と彫刻に彩られた総合公園です。広さ約 189ha の広大な敷地に、春には桜や色とりどりのつつじ、初夏にはしょうぶやあじさい、秋には菊が彩りを添え、湖では、優雅な白鳥やペリカンたちの愛らしい姿がみられ、また、花づくりなどでは、他都市に先駆け、障害者の働く場づくりにも取り組んでいます。

さらに、昭和 36 年（1961 年）以来隔年で開催される「UBE ビエンナーレ（現代日本彫刻展）」のメイン会場となる彫刻野外展示場を中心に彫刻が展示されており、彫刻と植物の融合したときわミュージアム、北部のスポーツ広場、遊園地や動物園も有し、市民の憩いの場、本市の貴重な観光資源として、多くの方々に利用されています。

しかし、近年、来園者が減少傾向にあったことから、効果的な活性化策の取組と効率的な管理運営が求められているところです。

こうした中、本市の宝である常盤公園を、利用者にとって魅力ある公園として継承し、新たな魅力を創りだし、賑わいの創出を図るために、「常盤公園活性化基本計画」を策定しました。

この常盤公園活性化基本計画は、「環境・芸術・スポーツ・福祉」の融合した先進的なモデル公園を目指して、広大な常盤公園を「にぎわい・観光エリア」「憩いのエリア」に分け、多様な資源や人が連携しながら、新たな魅力を創りだすことにしております。

平成 23 年には、市制 90 周年を迎えますが、今後は、この常盤公園活性化基本計画に基づき、様々な施策を展開し、市制 100 周年に向け、人の心がときめく公園づくりを進め、本市の活性化を図ってまいりたいと考えています。

市民の皆様におかれましては、この計画の推進にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、この計画の策定にあたり御尽力を賜りました関係各位に心からお礼申し上げます。

平成 22 年（2010 年）5 月

宇部市長

久保田 右子

目次

I. 計画策定にあたって

- 1. 計画策定の目的 1

II. 常盤公園の概況

- 1. 常盤公園の沿革 1
- 2. 常盤公園の概況 1

III. 基本方針と活性化のための基本計画

- 1. 常盤公園の基本方針 2
 - (1) 将来像 2
 - (2) ゾーン別の基本方針 3
- 2. 常盤公園活性化の基本計画 4
 - (1) 活性化の考え方 4
 - (2) ゾーン別の基本計画 5
 - ① 遊園地・動物園ゾーンの基本計画 5
 - ② 芸術・文化ゾーンの基本計画 7
 - ③ 自然・環境ゾーンの基本計画 9
 - ④ スポーツゾーンの基本計画 13
 - (3) 広域的な連携と情報発信の基本計画 14

IV. ときめき実行プラン

- 1. 遊び“ときめき”イベントプラン 16
 - (1) 取組の視点 16
 - (2) 具体的な取組 16
 - (3) 実行プラン 17
- 2. 観て触れて、“ときめき”体感プラン 18
 - (1) 取組の視点 18
 - (2) 具体的な取組 18
 - (3) 実行プラン 19

V. 管理運営方策

- 1. 管理運営体制の方向性 20
 - (1) 庁内組織の統合 20
 - (2) 常盤遊園協会の改革 20
 - (3) 明昌ネットワークとの連携 20
- 2. 市民参画やボランティア団体との連携 20
- 3. 障害者の働く場づくりの整備 20

用語解説 21

Ⅰ．計画策定にあたって

1．計画策定の目的

常盤公園は、昭和 33 年(1958 年)に常盤遊園地が開園して以来、憩いの場、観光などのにぎわいの場として多くの市民や観光客に利用されています。年間来園者数は、昭和 44 年の約 77 万人をピークに減少しはじめ、平成に入ると 50 万人を下回るようになり、平成 20 年（2008 年）には、37 万人台まで落ち込みました。また、広大な公園と多様な施設を維持管理する経費等が多くかかっている状況です。

このような中、本市の宝である常盤公園を、利用者にとって魅力ある場として継承していくために、効果的な活性化策に取り組みながら、効率的な管理運営を行っていくことが課題となっており、平成 21 年度には、遊園地を中心に連続的なイベントを実施するなど、来園者の増加に向けた施策を試行したところです。

本計画は、こうした状況を踏まえ、既存の施設や資源を継続的に維持し、活用しながら、ソフトの取組を主体とした計画を示すものであり、市民の憩いの場であるとともに、本市の貴重な観光施設である常盤公園の活性化のため、魅力づくりによる来園者の増加と持続可能な公園運営を図るための、効果的・効率的な活性化方策を検討し、実行することを目的とするものです。

Ⅱ．常盤公園の概況

1．常盤公園の沿革

常盤公園は、元禄 11 年頃(1698 年頃)に常盤池が築堤され、昭和 33 年(1958 年)に常盤遊園地の開園、昭和 36 年(1961 年)に第 1 回宇部市野外彫刻展の開催、昭和 37 年(1962 年)～39 年(1964 年)に宮大路動物園を常盤公園へ移設するなど、戦災復興の象徴、市民の憩いの場として、公園整備が進められてきました。

現在は、都市公園 100 選（平成 20 年 3 月 31 日現在、全国の都市公園数 39,948 箇所）、桜の名所 100 選にも選定されるとともに、総合レクリエーションセンター的性格も有し、市民はもちろん県内外の人々からも楽しい憩いの場、観光などのにぎわいの場として愛されています。

■常盤公園の主な成り立ち

- ・元禄 11 年頃（1698 年頃） ----- 常盤池の築堤
- ・昭和 32 年（1957 年） ----- オランダの動物園から白鳥 20 羽
- ・昭和 33 年（1958 年） ----- 常盤公園遊園地の開園
- ・昭和 36 年（1961 年） ----- 第 1 回宇部市野外彫刻展の開催
- ・昭和 37～39 年（1962～64 年） - 宮大路動物園を常盤公園へ移設
- ・昭和 40 年（1965 年） ----- 第 1 回現代日本彫刻展の開催、サボテンセンター開場
- ・昭和 41 年（1966 年） ----- しょうぶ苑を造成
- ・昭和 42 年（1967 年） ----- インドからモモイロペリカン 10 羽

<宇部市史 通史篇 下巻 より>

2．常盤公園の概況

常盤公園は、本市の東部に位置し、市民のオアシスとして、また「緑と花と彫刻のまち」のシンボルとして、野鳥が住み広大な自然を残す、面積約 189ha の都市公園です。

園内には四季折々の自然と白鳥、野鳥、ときわミュージアム（本館・分館）、しょうぶ苑、彫刻野外展示場、石炭記念館、遊園地、動物園などが主な施設であり、特に彫刻野外展示場は、昭和 36 年以来隔年で開催されている「UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）」の会場として全国的に著名です。

■常盤公園の施設・資源

常盤湖、白鳥・ペリカン  <白鳥湖>	動物園  <ときわ丸>	遊園地  <遊具>  <イルミネーションイベント>
季節の花木  <しょうぶ苑>	石炭記念館  <外観>	彫刻  <蟻の城>  <大地の日月>
ときわレストハウス  <外観>	ときわ湖水ホール  <外観>	ときわミュージアム  <外観>  <熱帯植物室>
多目的広場・サッカー場  <多目的広場>	周遊園路  <北側周遊園路>	キャンプ場  <北キャンプ場> 青年の家  <外観>

III. 基本方針と活性化のための基本計画

1. 常盤公園の基本方針

(1) 将来像

①常盤公園の基本的な方向性

常盤公園は、常盤湖を中心として、自然環境や白鳥・ペリカンなどの動植物に恵まれた壮大な公園であり、さらに隣接してときわ遊園地、動物園などのレジャー機能を有しています。公園内には、彫刻野外展示場を中心に各所に野外彫刻が展示されており、宇部市の芸術・文化の発信地でもあります。さらに、桜やしょうぶなどの花と緑が、季節によって特徴的な彩りをみせます。常盤公園の多様な資源は宇部市の財産であり、市民の誇りでもあります。

近年、来園者は減少傾向にあるものの、平日は市民の日常の憩いの空間、休日やイベント・祭りの際には多くの来園者によるにぎわい空間を創出しており、今後も市民や観光客の幅広い世代に愛される公園として、更なる魅力づくりが求められます。また、障害者等が花づくりや除草作業などに参画するなど、福祉や教育の面においても、大きな役割を担っており、公園を支える人の連携にも取り組んでいくことが求められます。

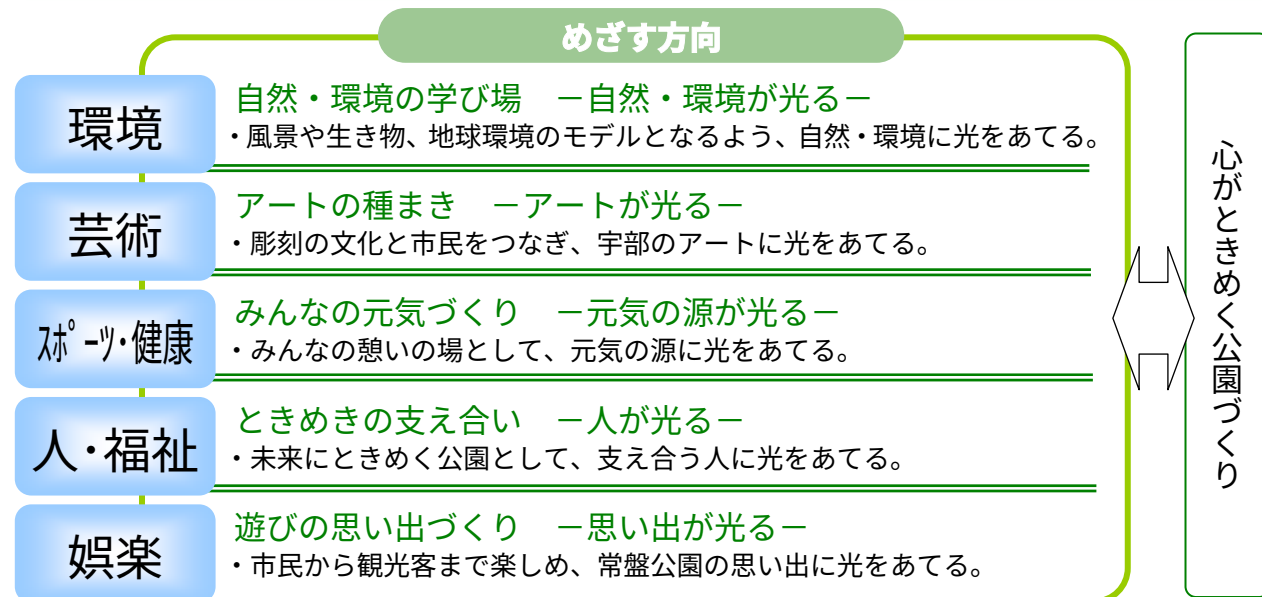
そこで、常盤公園の「環境・芸術・スポーツ・福祉」の融合した先進的なモデル公園化を目指し、常盤公園の多様な資源に光をあて、多くの資源や人が連携し、娯楽を含め「憩いの場」「観光施設」として新たな魅力を創りだし、未来に向かって、人の心がときめく公園づくりを進めます。

②常盤公園の将来像

常盤公園の基本的な方向性を踏まえ、将来像を以下に示します。

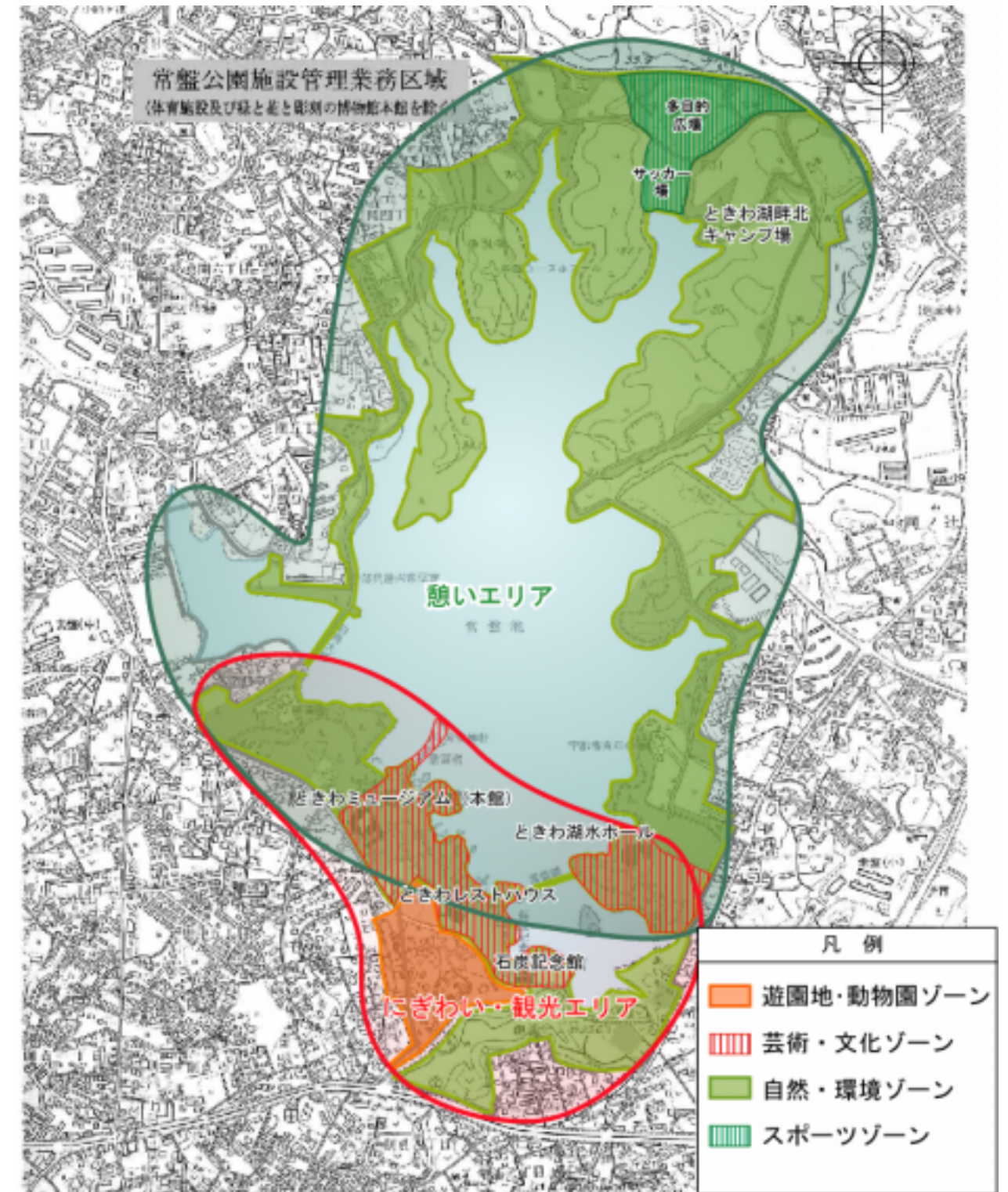
■常盤公園の将来像

宇部の財産に光をあてる ときわ“ときめき”公園



③常盤公園のエリア区分図

常盤公園を、「にぎわい・観光エリア」と「憩いエリア」に大きく2つに分け、資源の特性に応じて、「遊園地・動物園ゾーン」「芸術・文化ゾーン」「自然・環境ゾーン」「スポーツゾーン」に分類します。



(2) ゾーン別の基本方針

①ゾーン別の方向性

		環境	芸術	スポーツ・健康	人・福祉	娯楽	基本方針
にぎわい・観光エリア	遊園地・動物園ゾーン	・花や動物と触れ合いながら遊ぶ	—	—		・乗物に乗ったり、イベントに参加して遊ぶ ・動物園を回遊しながら遊ぶ	
	芸術・文化ゾーン	・自然と彫刻の融合を楽しむ	・彫刻と市民をつなぐアートイベントで楽しむ ・有名作家の多くの彫刻作品を楽しむ ・宇部市の彫刻の文化を学ぶ	—	・障害者等の働き場として、公園の運営を支える	・サボテンなどの珍しい熱帯植物を楽しむ ・宇部市の文化を発信し、炭鉱の歴史を学ぶ	
	自然・環境ゾーン	・雄大な風景や豊かな自然の中で花や白鳥と触れ合う ・生物多様性やリユースの推進など環境モデルに取り組む	—	・ジョギングや散歩をしながら自然を回遊し、自然の安らぎを感じる	・誰もが楽しめる公園をつくるため、市民と行政が協働して運営する	・桜やしょうぶなどの季節の花の移り変わりをを感じる	
	スポーツゾーン	—	—	・多目的広場やサッカー場で体を動かす		—	
憩いエリア							
							【遊園地・動物園ゾーン】 市民と観光客が共遊し、にぎわいある“ときめき”公園づくり
							【芸術・文化ゾーン】 彫刻や熱帯植物、宇部の歴史とふれあう参加型の“ときめき”公園づくり
							【自然・環境ゾーン】 自然の安らぎを感じ、憩いのある“ときめき”公園づくり
							【スポーツゾーン】 みんなが健康で、笑顔がつながりあう“ときめき”公園づくり

②ゾーン別の展開方向

基本方針の実現に向けた方向性を踏まえ、取組の展開方向の考え方とゾーン別の主なターゲットを整理します。

展開方向の考え方

◆資源のポテンシャルを活用する

・常盤公園の風景や歴史などの既存財産のポテンシャルを最大限活用し、常盤公園の隠れているブランド力を引き出すことで、宇部市の象徴として、持続可能な総合公園にリニューアルする。

◆公園を支える人材を活かす

・常盤公園の人材ストックを活用し、訪れる市民や観光客、公園で活動する団体や市民がつながり、みんなで支えていく総合公園とする。

◆資源と人をつなげる

・常盤公園の資源や人が回遊することで、新たな魅力と仕組みを創りだし、多世代が共に遊びやスポーツなどで楽しむことができる公園とする。

・現在の観光動向を見極め、広域的な観光拠点の連携と効果的な情報発信を行う。

■取組を展開するにあたってのゾーン別の主なターゲット

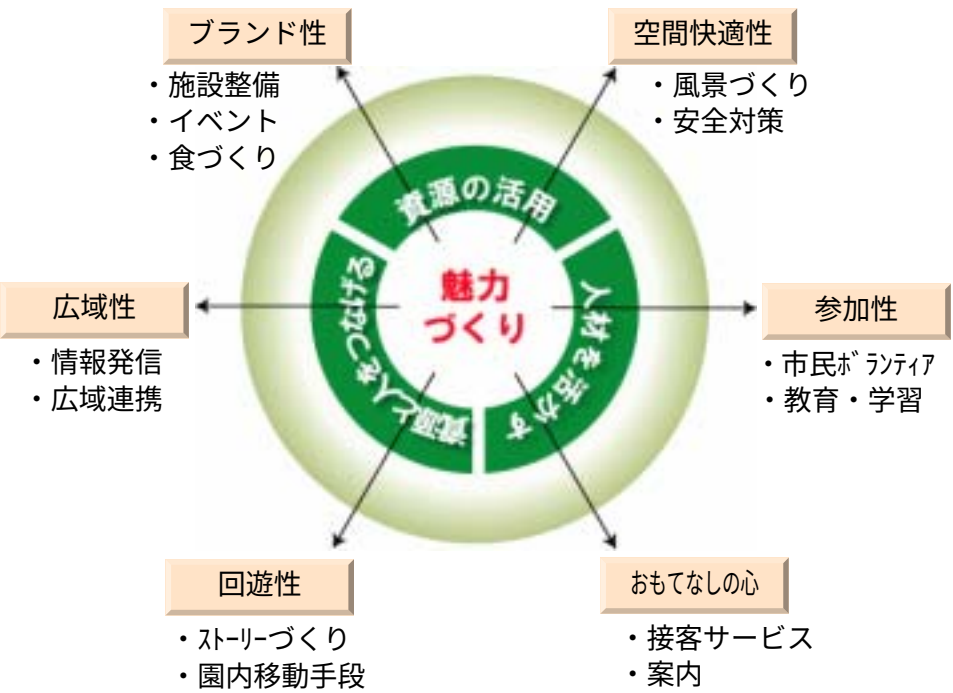
ゾーン	ターゲット
遊園地・動物園ゾーン	●休日市民・観光客（子ども・ファミリー層）
芸術・文化ゾーン	●休日市民・平日市民（子ども）・観光客
自然・環境ゾーン	●市民・観光客
スポーツゾーン	●市民等

2. 常盤公園活性化の基本計画

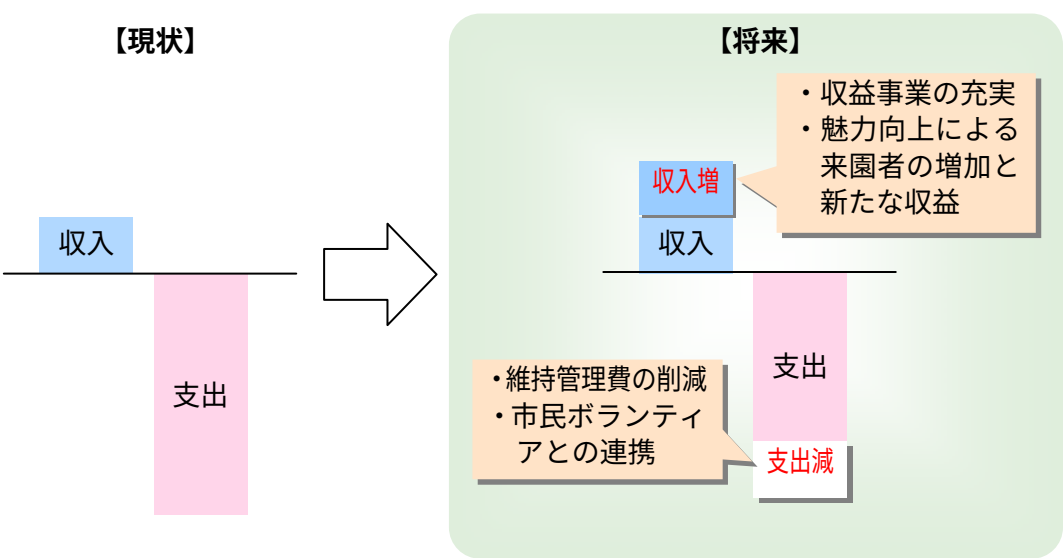
(1) 活性化の考え方

常盤公園の活性化に向けて、「魅力づくり」と「公園運営」の視点が必要であり、「魅力づくり」の要素を高めていくとともに、収入増と支出減に向けた効率的な「公園運営」を行います。

■魅力づくりの考え方



■公園運営の考え方



(2) ゾーン別の基本計画

①遊園地・動物園ゾーンの基本計画

1) 遊園地・動物園ゾーンの特性

資源・特性

- ・県内屈指の規模を有するときわ遊園地
- ・サルやフラミンゴなどの動物園
- ・休日や季節に合わせた各種イベント



＜ときわ遊園地：ときわサマーフェスタ＞

2) 遊園地・動物園ゾーンに関する来園者意向

来園者意向

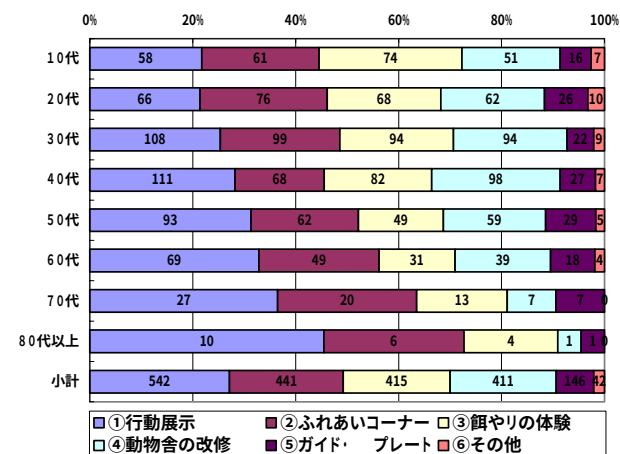
- ◇ 遊園地においては、子どもやファミリー層の利用が多く、若者や高齢者にとっては魅力が感じられていない。
- ◇ 動物園においては、行動展示やふれあいコーナーなど、より動物とふれあう機会が求められている。
- ◇ キャラクターショーやコンサート、乗物乗り放題などのイベントが求められている。

■実施してほしいイベント上位5項目（自由意見）

実施してほしいイベント	回答数
キャラクターショー（ピカチュウ、アンパンマン）	11
食虫植物展	6
お祭り、花火	6
コンサート、ライブ、音楽等	5
乗物乗り放題、フリーパス	3

（宇部日報アンケート調査より）

■今後の動物園に求められること



（TOKIWA ファンタスティックサマーアンケート調査より）

3) 遊園地・動物園ゾーンの課題

戦略課題

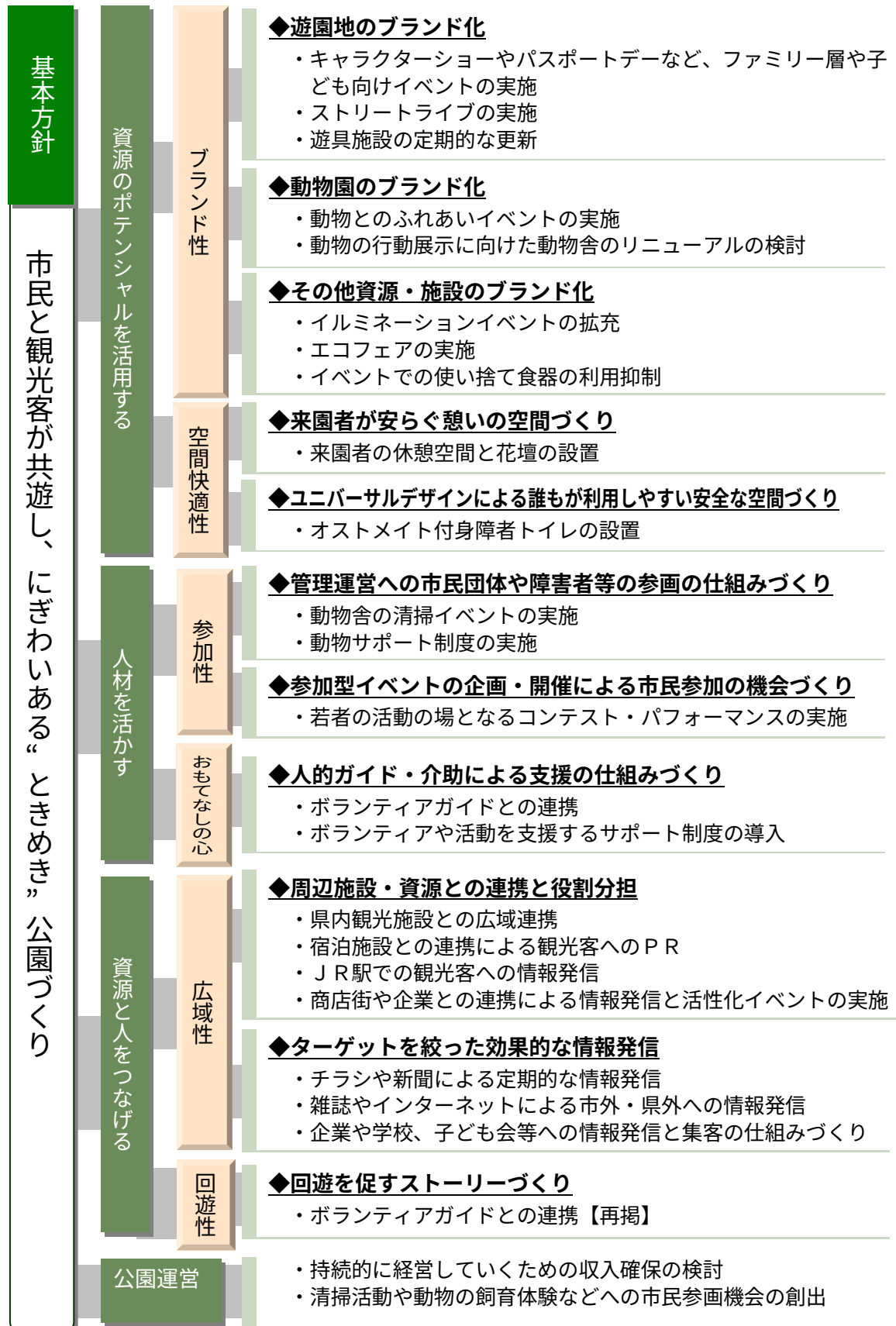
◆来園者ニーズを捉えた、夢と娯楽を生み出す連続的なイベント企画と広報戦略

個別課題

- 入園者の確保に向けた子どもやファミリー層を対象とした連続的なイベントの企画と広報戦略が必要である。
- 周辺観光資源との連携による広域観光の強化が必要である。
- 動物舎の老朽施設の改善と併せ、動物の行動展示のための施設整備が必要である。
- 動物とふれあう機会やイベントの企画が求められる。

4) 遊園地・動物園ゾーンの施策体系

遊園地・動物園ゾーンの特性と課題、来園者意向を踏まえ、「市民と観光客が共遊し、にぎわいある“ときめき”公園づくり」の実現に向けた取組を以下に示します。



◆遊園地・動物園ゾーンにおける取組

遊園地・動物園ゾーンの取組展開図

＜全体的取組＞

- イベントでの使い捨て食器の利用抑制
- ボランティアガイドとの連携
- ボランティアや活動を支援するサポート制度の導入
- 県内観光施設との広域連携
- 宿泊施設との連携による観光客へのPR
- JR駅での観光客への情報発信
- 商店街や企業との連携による情報発信と活性化イベントの実施
- チラシや新聞による定期的な情報発信
- 雑誌やインターネットによる市外・県外への情報発信
- 企業や学校、子ども会等への情報発信と集客の仕組みづくり

【凡例】

- “ブランド性”を高める方策
- “空間快適性”を高める方策
- “参加性”を高める方策
- “おもてなしの心”を高める方策
- “広域性”を高める方策
- “回遊性”を高める方策

- 来園者の休憩空間と花壇の設置
- キャラクターショーやパスポートデーなど、ファミリー層や子ども向けイベントの実施
- ストリートライブの実施
- 若者の活動の場となるコンテスト・パフォーマンスの実施
- 遊具施設の定期的な更新
- イルミネーションイベントの拡充
- エコフェアの実施



- 動物とのふれあいイベントの実施
- 動物の行動展示に向けた動物舎のリニューアルの検討
- 動物舎の清掃イベントの実施
- 動物サポート制度の実施

◆ストリートライブの実施

新たなニーズや魅力を創出するため、ストリートライブを開催します。



＜常盤公園：ストリートライブ＞

◆県内観光施設との広域連携

秋吉台サファリランドと連携協定の締結により、乗物招待券の進呈や動物レンタルなどを行い、広域観光の強化を図ります。



＜出展：秋吉台サファリランドパンフレット＞



＜秋吉台サファリランドとの連携＞

◆キャラクターショーやパスポートデーなど、ファミリー層や子ども向けイベントの実施

利用ニーズが高いファミリー層や子どもの休日の集客を図るため、キャラクターショーやパスポートデーなどのイベントを定期的の実施します。



＜常盤公園：シンケンジャーショー＞

◆動物とのふれあいイベントの実施

動物とのふれあいイベントや動物園ワークショップ等を実施し、来園者が動物とふれあうことができる機会を創出します。



＜常盤公園：動物とのふれあいイベント＞

◆来園者の休憩空間と花壇の設置

遊休地を活用し、来園者が安らぐことができる休憩空間と花壇を設置し、憩いの空間づくりを進めます。

■休憩空間のイメージ



②芸術・文化ゾーンの基本計画

1) 芸術・文化ゾーンの特性

資源・特性

- ・UBEビエンナーレの会場になる彫刻野外展示場
- ・展示室や体験コーナーがあるときわミュージアム
- ・全国屈指のサボテンがある熱帯植物室
- ・宇部の歴史を紹介する石炭記念館



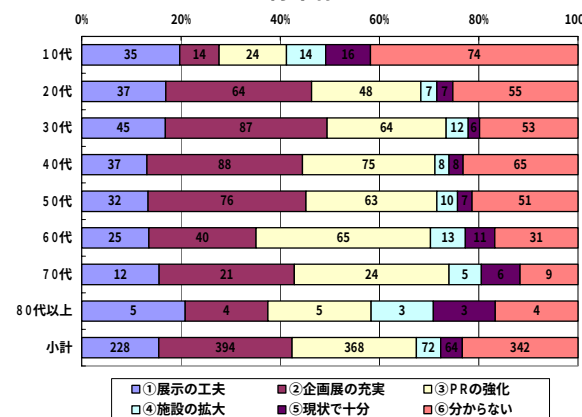
＜ときわミュージアム：彫刻野外展示場＞

2) 芸術・文化ゾーンに関する来園者意向

来園者意向

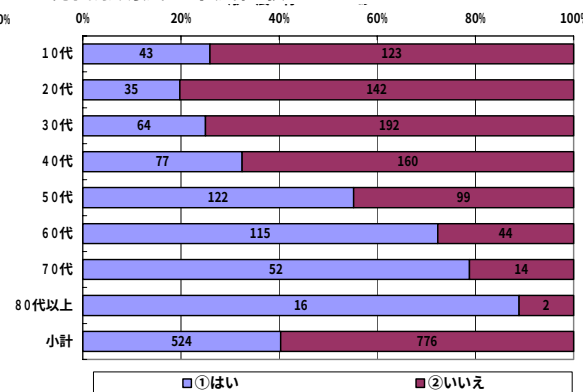
- ◇ 若年層においてときわミュージアム開館の認知度が低い。
- ◇ ときわミュージアムの将来像として、企画展の充実が求められている。
- ◇ 現代彫刻展（UBEビエンナーレ）への若年層の来展経験が少ない。

■ときわミュージアムの将来像にふさわしいもの



(宇部日報アンケート調査より)

■現代彫刻展の来展経験



(宇部日報アンケート調査より)

3) 芸術・文化ゾーンの課題

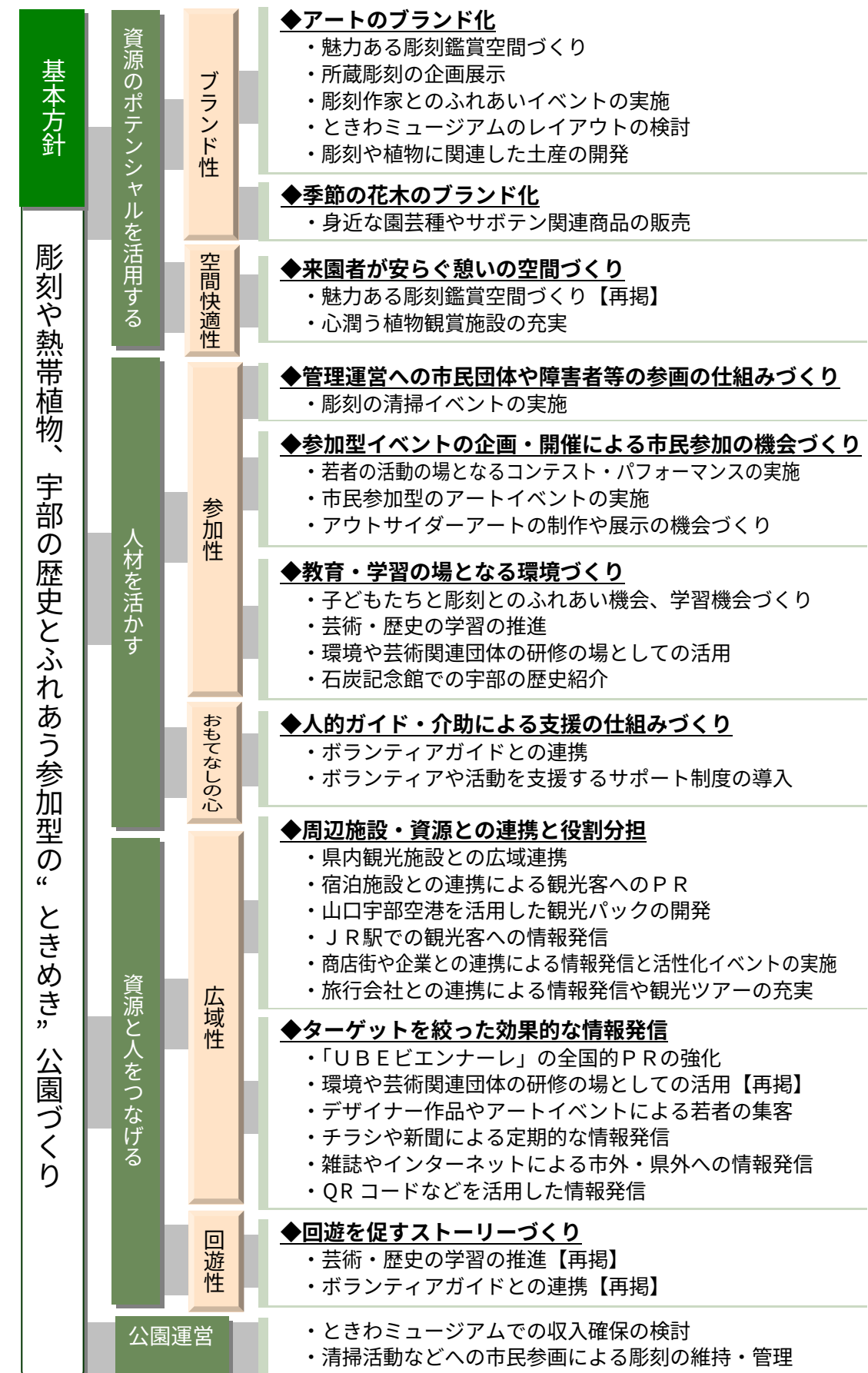
戦略課題

◆潜在的な魅力を秘めた芸術・文化資源と来園者のふれあい機会づくり

- 広域的な集客が見込まれる彫刻の文化やサボテンの魅力を全国的にPRする必要がある。
- 来園者が彫刻とふれあい機会や参加型イベントの定期的な実施が必要である。
- 来園者に分かりやすく、魅力的な彫刻の鑑賞空間づくりが必要である。
- サボテンや熱帯植物などの、分かりやすく学習にもなる観賞空間づくりが必要である。
- ときわミュージアムの利用を促進するための体験コーナーやショップの配置や土産物の開発が必要である。

4) 芸術・文化ゾーンの施策体系

芸術・文化ゾーンの特性と課題、来園者意向を踏まえ、「彫刻や宇部の歴史とふれあう参加型の“ときめき”公園づくり」の実現に向けた取組を以下に示します。



◆芸術・文化ゾーンにおける取組

芸術・文化ゾーンの取組展開図

＜＜全体の取組＞＞

- 魅力ある彫刻鑑賞空間づくり
- 芸術・歴史の学習の推進
- 環境や芸術関連団体の研修の場としての活用
- ボランティアガイドとの連携
- ボランティアや活動を支援するサポート制度の導入
- 県内観光施設との広域連携
- 宿泊施設との連携による観光客へのPR
- 山口宇部空港を活用した観光パックの開発
- JR駅での観光客への情報発信
- 商店街や企業との連携による情報発信と活性化イベントの実施
- 「UBEビエンナーレ」の全国的PRの強化
- デザイナー作品やアートイベントによる若者の集客
- チラシや新聞による定期的な情報発信
- 雑誌やインターネットによる市外・県外への情報発信
- QRコードなどを活用した情報発信
- 旅行会社との連携による情報発信や観光ツアーの充実

- ときわミュージアムのレイアウトの検討
- 彫刻や植物に関連した土産の開発
- 身近な園芸種やサボテン関連商品の販売
- 心潤う植物観賞施設の充実
- 彫刻作家とのふれあいイベントの実施
- 市民参加型のアートイベントの実施
- 若者の活動の場となるコンテスト・パフォーマンスの実施
- 子どもたちと彫刻とのふれあい機会、学習機会づくり

- アウトサイダーアートの制作や展示の機会づくり
- 所蔵彫刻の企画展示

【凡例】

- “ブランド性”を高める方策
- “空間快適性”を高める方策
- “参加性”を高める方策
- “おもてなしの心”を高める方策
- “広域性”を高める方策
- “回遊性”を高める方策

◆心潤う植物観賞施設の充実

植物の成長に合わせた施設の改善や、植物の入れ替え等にバックヤードの充実、老朽化した設備改善など、「ときわミュージアムのレイアウトの検討」に併せて魅力ある植物観賞施設の改善を検討します。



＜常盤公園：熱帯植物室＞

■ 石炭記念館での宇部の歴史紹介

◆ときわミュージアムのレイアウトの検討

ミュージアムの利用者や熱帯植物室の来園者が、より快適に植物を観賞し、施設内を回遊できるように、中庭を活用した動線計画を検討するとともに、土産物が購入しやすいような配置検討を行います。



＜ミュージアムショップ＞



＜ときわミュージアム中庭＞

◆魅力ある彫刻鑑賞空間づくり

来園者がじっくりと彫刻を鑑賞できるように、彫刻を鑑賞するスペースを確保し、鑑賞位置を明確化します。また、作家の意図を尊重しながら、彫刻と自然の調和や雑然とした背景との分離などに配慮した周辺環境の整備に努めます。

解説を大きく分かりやすく設置し、彫刻を楽しむツアーなどを開催します。



＜彫刻：底流＞



＜彫刻：無題 No.95 1985＞

◆市民参加型のアートイベントの実施

彫刻を作ったり、彫刻に触れることができる市民参加型のアートイベントなどを定期的に開催し、彫刻に親しみやすくします。



＜常盤公園：アートイベント＞

③自然・環境ゾーンの基本計画

1) 自然・環境ゾーンの特性

資源・特性

- ・常盤公園の象徴である広大な常盤湖
- ・約 400 羽の白鳥やペリカン
- ・桜山やしょうぶ苑などの季節の花木
- ・広大な公園を周遊できる園路
- ・ときわレストハウスなどの休憩・交流できる園内施設



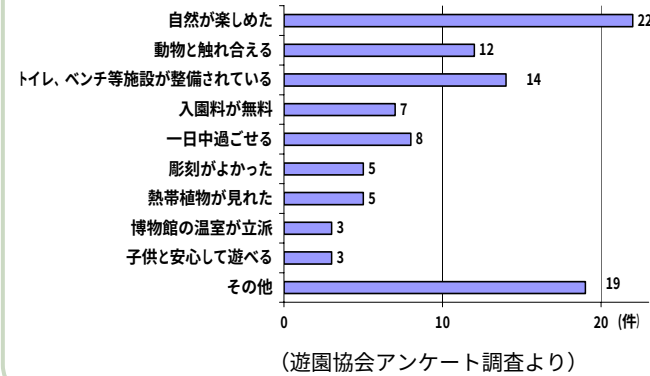
<石炭記念館展望台から常盤湖を望む>

2) 自然・環境ゾーンに関する来園者意向

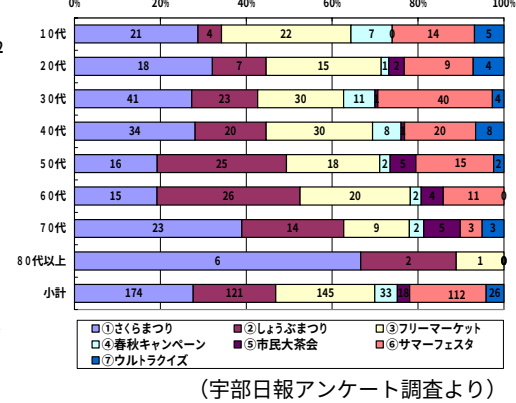
来園者意向

- ◇ 常盤湖や白鳥・ペリカンは常盤公園内で最も魅力ある資源としてあげられる。
- ◇ 来園者の感想も、自然が楽しめたという意見が多い。
- ◇ さくらまつりやしょうぶまつりなどの季節の花木を活かしたイベントの人気の高い。
- ◇ 常盤公園の将来像としても、自然公園としての意向が多く、自然環境の大切さが窺える。

■常盤公園の良かった点



■おもしろかったイベント



3) 自然・環境ゾーンの課題

戦略課題

◆多様な利用者が多目的に安らぎの時間を過ごすための自然環境の保全と活用

魅力づくり課題

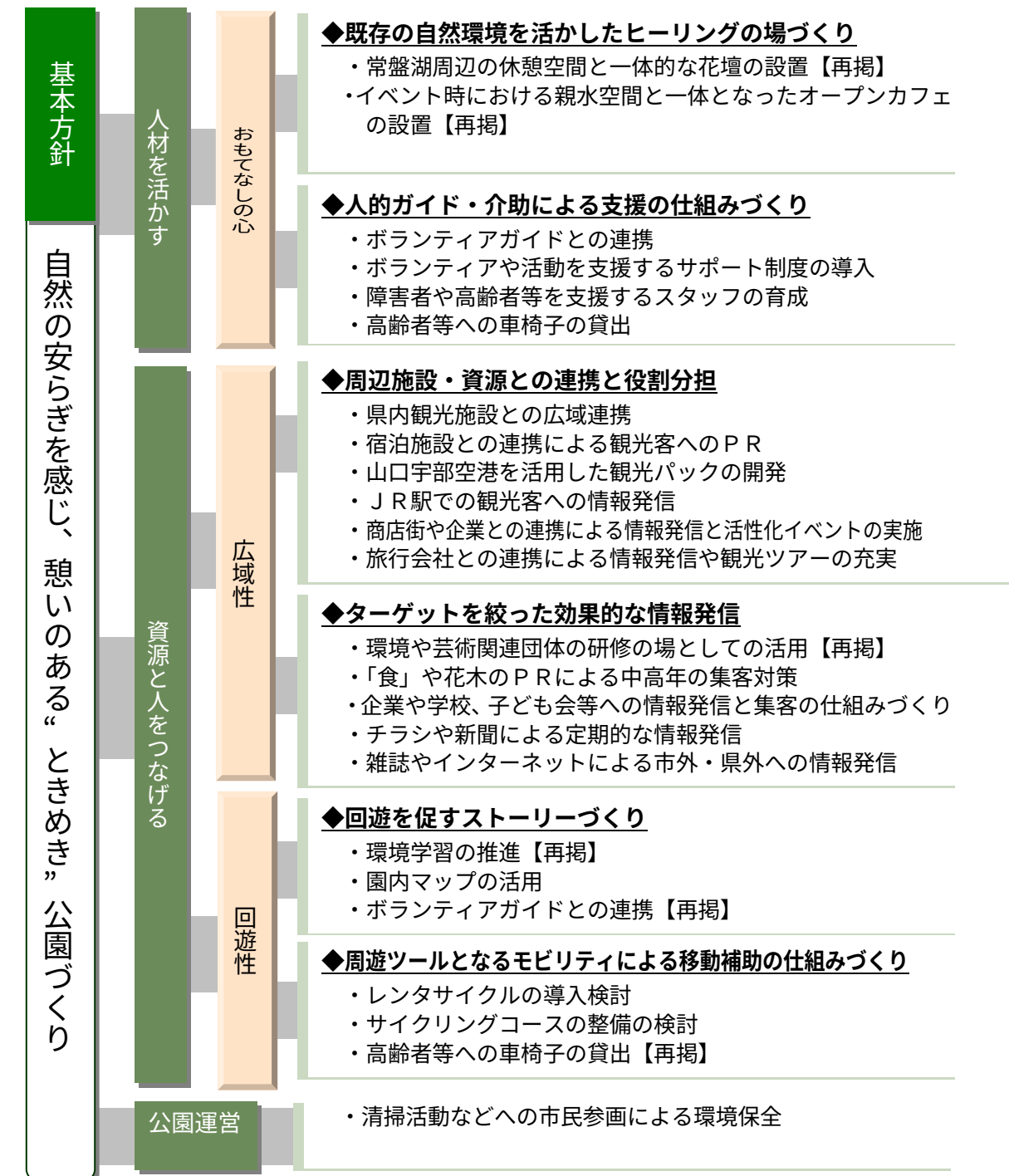
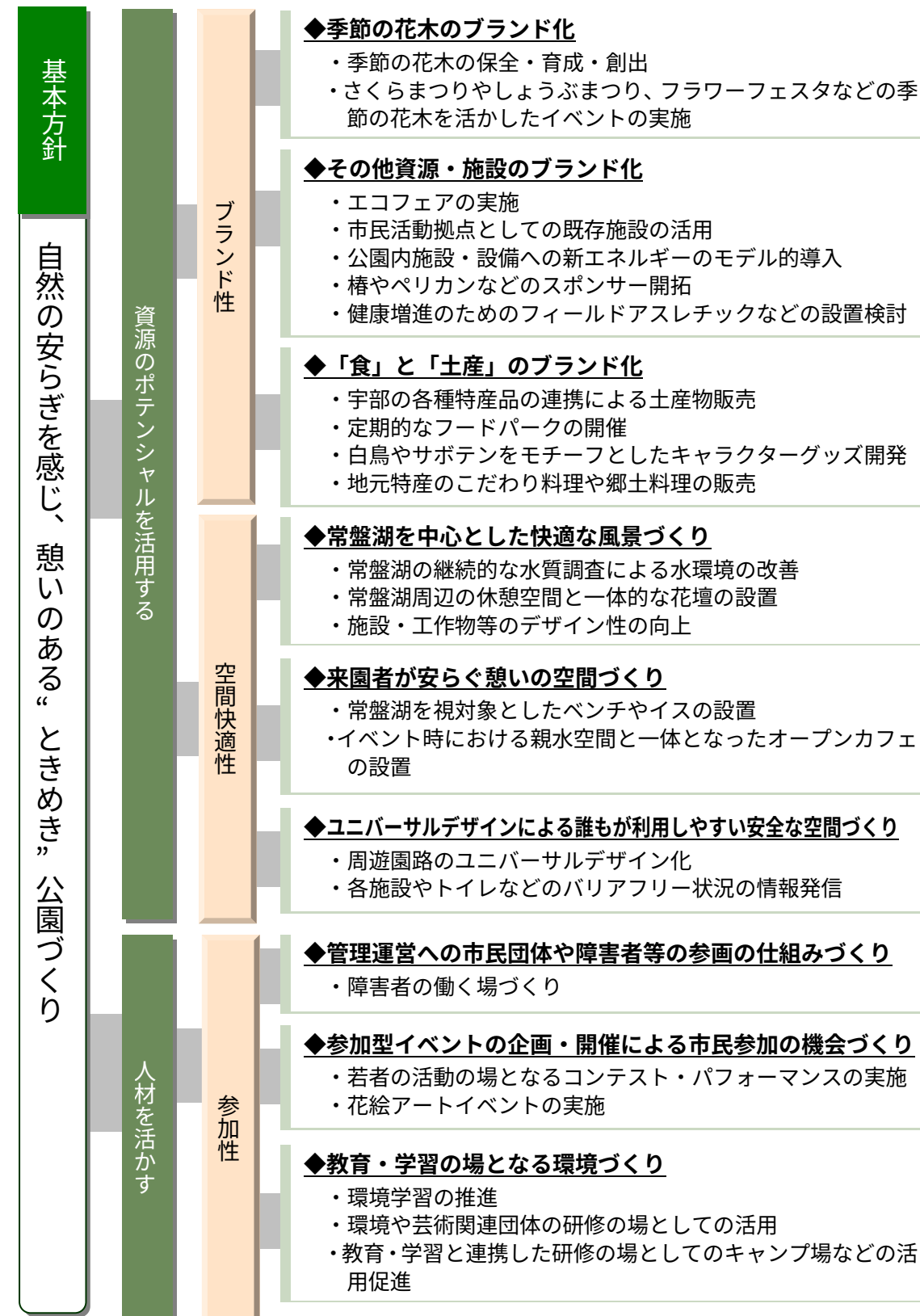
- 常盤湖と一体となった安らぎの空間づくりや白鳥・ペリカンとのふれあい機会づくりが必要である。
- 季節性を活かした催し物や、花木にふれあうことができるイベントが必要である。
- 高齢者をターゲットとした広報戦略が必要である。
- 休憩施設と一体となった花壇の設置や魅力を高める集中的な配置が必要である。
- 市民が日常から安心して利用できる周遊園路の管理・整備が必要である。



<白鳥湖での白鳥とのふれあい>

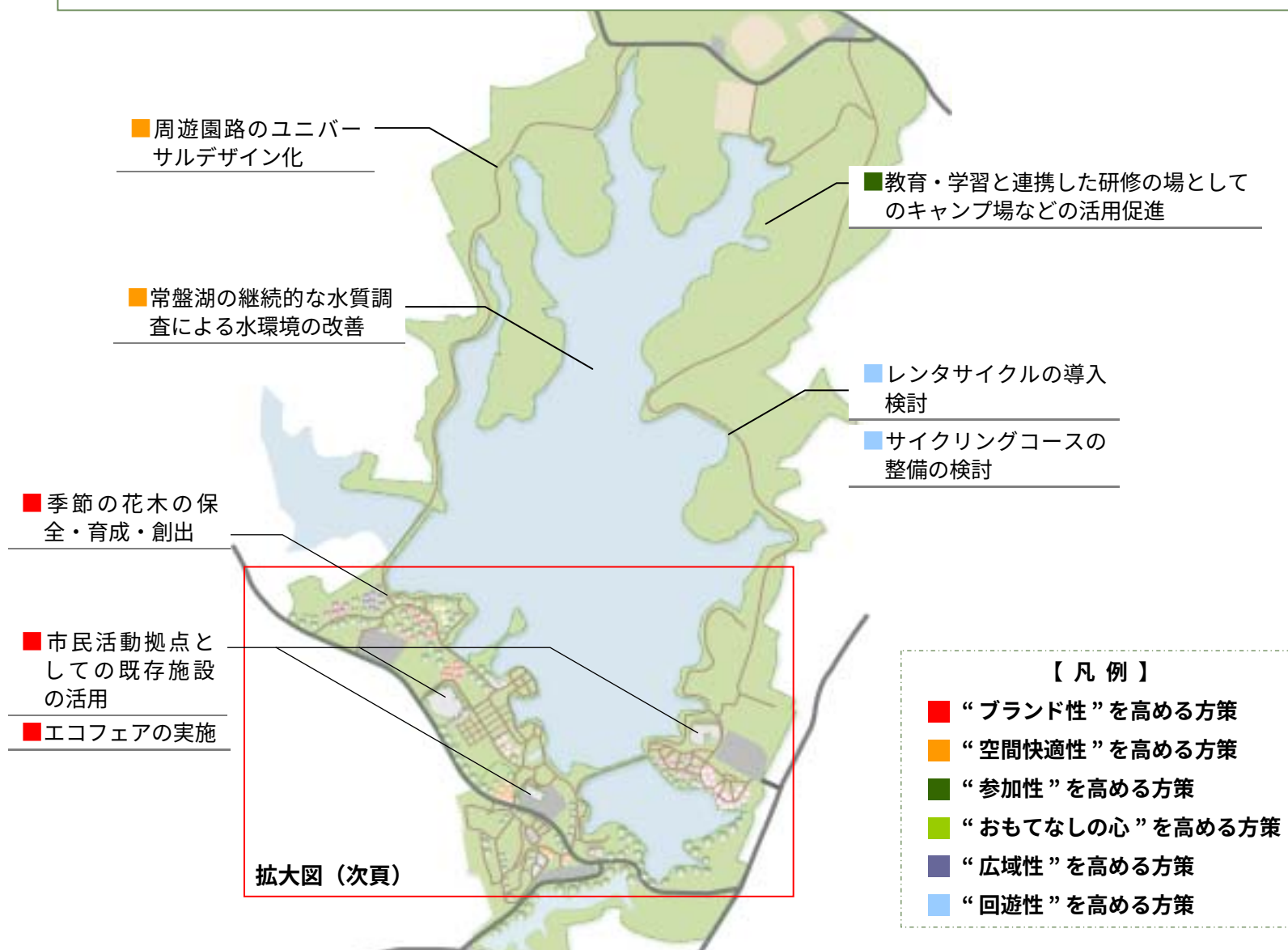
4) 自然・環境ゾーンの施策体系

自然・環境ゾーンの特性と課題、来園者意向を踏まえ、「自然の安らぎを感じ、憩いのある“ときめき”公園づくり」の実現に向けた取組を以下に示します。



◆自然・環境ゾーンにおける取組

自然・環境ゾーンの取組展開図



《全体の取組》

- 椿やペリカンなどのスポンサー開拓
- 健康増進のためのフィールドアスレチックなどの設置検討
- 白鳥やサボテンをモチーフとしたキャラクターグッズ開発
- 施設・工作物等のデザイン性の向上
- 各施設やトイレなどのバリアフリー状況の情報発信
- 環境学習の推進
- 障害者の働く場づくり
- 環境や芸術関連団体の研修の場としての活用
- ボランティアガイドとの連携
- ボランティアや活動を支援するサポート制度の導入
- 障害者や高齢者等を支援するスタッフの育成
- 県内観光施設との広域連携
- 宿泊施設との連携による観光客へのPR
- 山口宇部空港を活用した観光パックの開発
- JR駅での観光客への情報発信
- 商店街や企業との連携による情報発信と活性化イベントの実施
- 「食」や花木のPRによる中高年の集客対策
- 企業や学校、子ども会等への情報発信と集客の仕組みづくり
- チラシや新聞による定期的な情報発信
- 雑誌やインターネットによる市外・県外への情報発信
- 旅行会社との連携による情報発信や観光ツアーの充実
- 園内マップの活用

◆市民活動拠点としての既存施設の活用

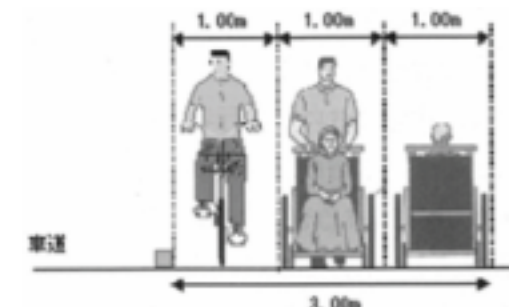
日常の利用が少ないレストハウス2階の休憩スペースなどは、市民活動の場や常盤公園の紹介の場として、多目的な利用を促進します。



＜常盤公園：アートワークショップ＞

◆周遊園路のユニバーサルデザイン化

市民が散歩やジョギングなどで多く活用している周遊園路において、安全な歩行空間を確保するため、幅員3m以上の確保に努めるとともに、休憩施設のバリアフリー化、誰にでも分かりやすい案内標識の設置などのユニバーサルデザイン化に努めます。



＜道路の移動円滑化整備ガイドライン＞

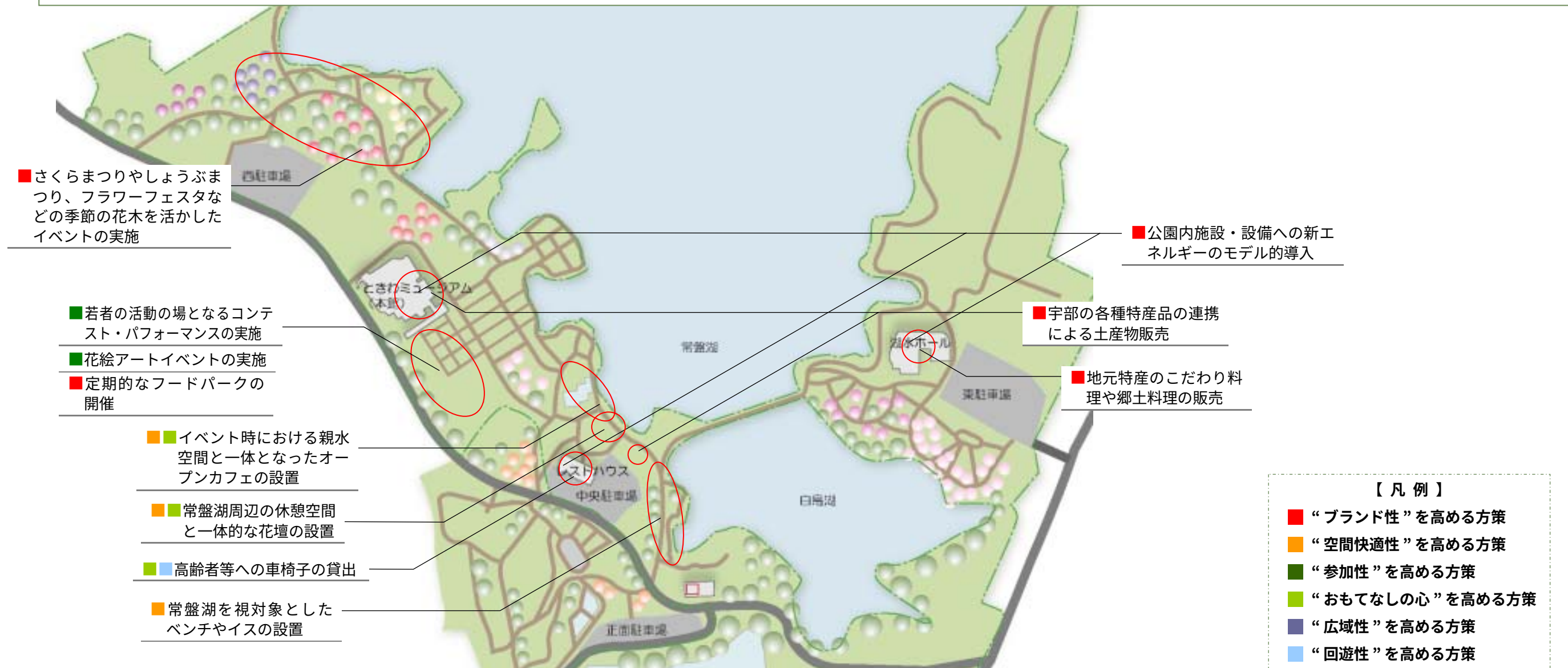
◆レンタサイクルの導入検討

広大な常盤公園において来園者の周遊を促進するために、各箇所にサイクルステーションを設け、レンタサイクルの導入やおもしろ自転車の導入を検討します。



＜おもしろ自転車のレンタサイクル＞

自然・環境ゾーンの取組展開図（拡大図）



◆ さくらまつりやしょうぶまつり、フラワーフェスタなどの季節の花木を活かしたイベントの実施

さくらまつりやしょうぶまつりなど、季節ごとに祭りやイベントを実施し、幅広い世代が自然の花木にふれあう機会づくり及びリピーターの確保に努めます。

<常盤公園：さくらまつり、しょうぶまつり>



◆ イベント時における親水空間と一体となったオープンカフェの設置

多くの来園者が見込まれる休日やイベント時には、親水空間と一体となったオープンカフェの設置を検討し、安らぎながら滞在できる憩いの空間を創出します。



<常盤公園：サマーフェスタ>

◆ 常盤湖周辺の休憩空間と一体的な花壇の設置

彫刻と花が融合した花壇等を設置するとともに、常盤湖などの自然景観とも調和しながら、安らぎのある空間で休憩することができる広場を創出します。

■ 花壇設置のイメージ



④スポーツゾーンの基本計画

1) スポーツゾーンの特性

資源・特性

- ・平日・休日に関わらず、市民の利用が多い多目的広場
- ・日常の練習や試合の拠点として活用されているサッカー場



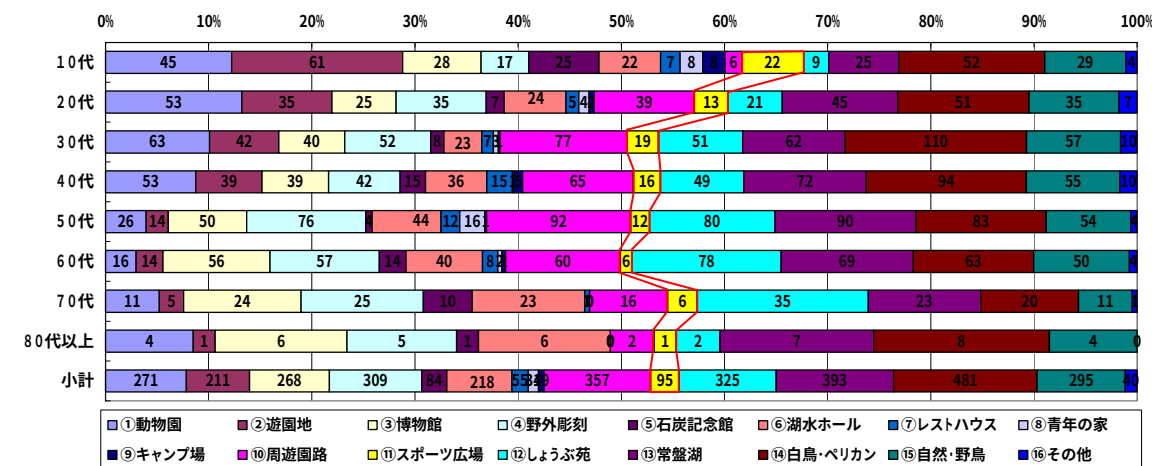
＜サッカー場＞

2) スポーツゾーンに関する来園者意向

来園者意向

- ◇ 全体の資源中で比較すると、スポーツ広場の魅力度は低いが、年代別にみると若年層で魅力を感じる割合が高い。

■常盤公園の魅力を感じる資源



(宇部日報アンケート調査より)

3) スポーツゾーンの課題

戦略課題

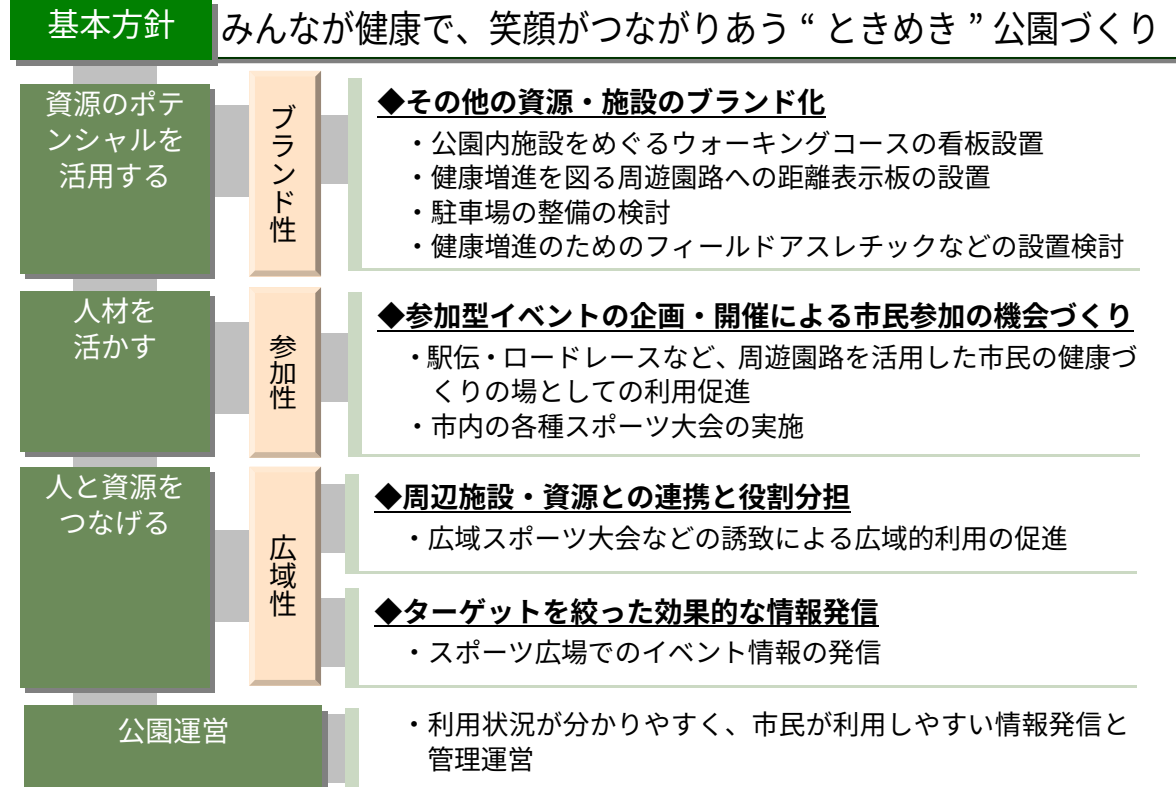
◆市民の健康と日常のリフレッシュを創出する活動の機会づくり

魅力づくり課題

- スポーツ大会などによる利用機会づくりが必要である。
- 周遊園路と一体的な健康づくりの場としての利用促進が必要である。

4) スポーツゾーンの施策体系

スポーツゾーンの特性と課題、来園者意向を踏まえ、「みんなが健康で、笑顔がつながりあう “ときめき” 公園づくり」の実現に向けた取組を以下に示します。



◆スポーツゾーンにおける取組

スポーツゾーンの取組展開図

《全体の取組》

- 健康増進のためのフィールドアスレチックなどの設置検討
- 広域スポーツ大会などの誘致による広域的利用の促進

- 市内の各種スポーツ大会の実施

- 駅伝・ロードレースなど、周遊園路を活用した市民の健康づくりの場としての利用促進

- 駐車場の整備の検討



- 公園内施設をめぐるウォーキングコースの看板設置
- 健康増進を図る周遊園路への距離表示板の設置
- スポーツ広場でのイベント情報の発信

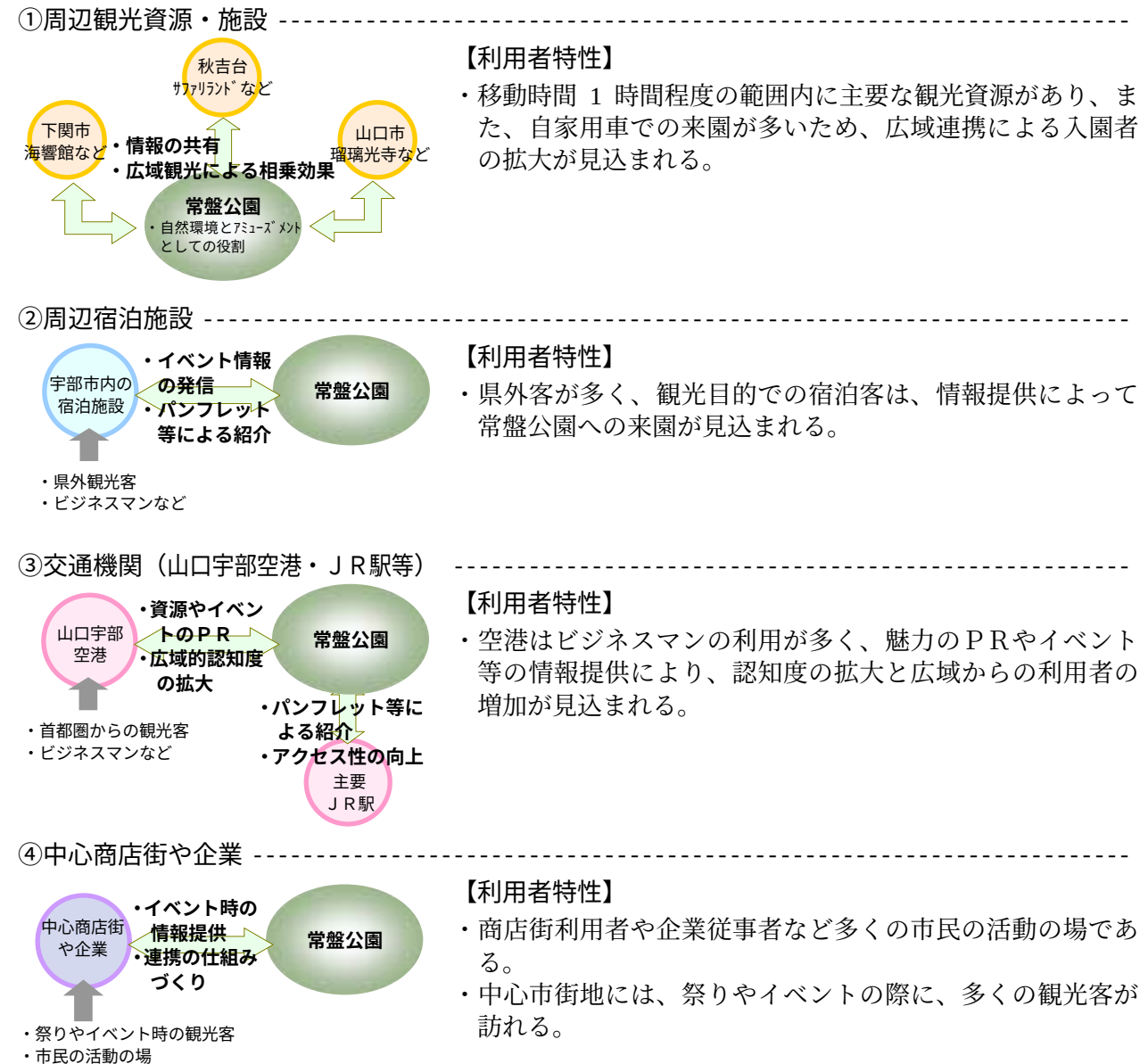
【凡例】

- “ブランド性” を高める方策
- “参加性” を高める方策
- “広域性” を高める方策

(3) 広域的な連携と情報発信の基本計画

1) 周辺との立地関係と利用者特性

資源・特性



2) 広域的な連携と情報発信の課題

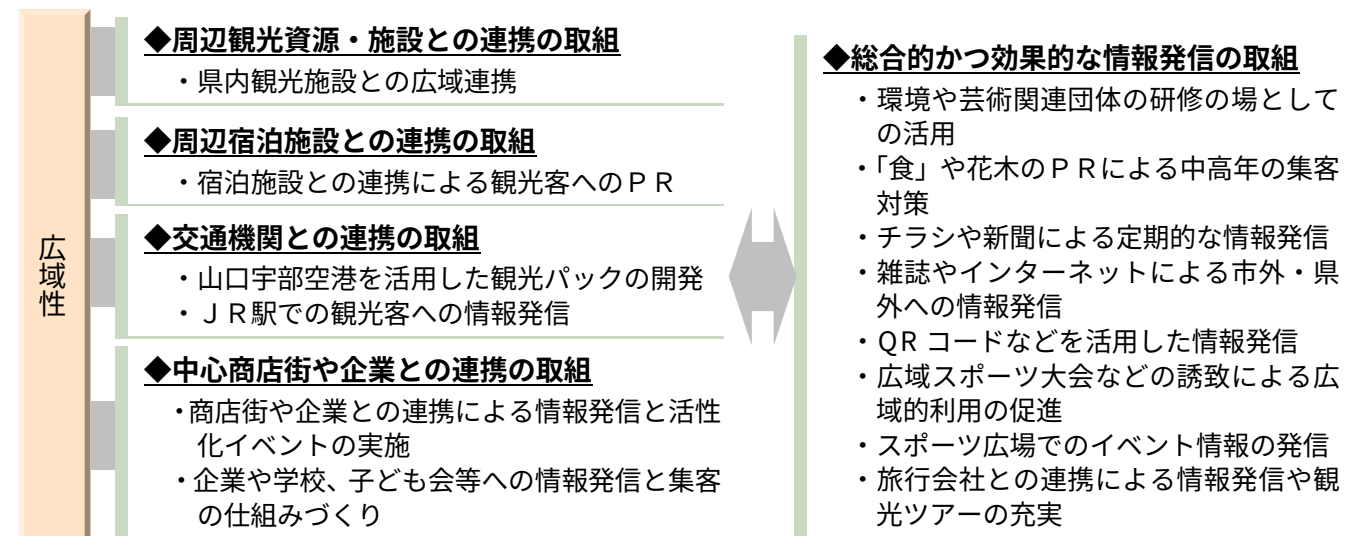
戦略課題

◆広域的な観光連携による魅力の向上と効果的・効率的な広報戦略

- 魅力づくり課題
- 周辺観光施設との役割分担を明確化し、情報共有と連携の仕組みづくりが必要である。
 - 宿泊施設との情報共有（イベント情報など）とパンフレットや観光ガイドなどによる宿泊客への情報提供が必要である。
 - 空港と連携した広域的な観光客が来園できる取組が必要である。
 - 商店街や企業との情報共有と連携の仕組みづくりが必要である。
 - 広域観光客の集客につながる総合的かつ効果的な情報発信が必要である。

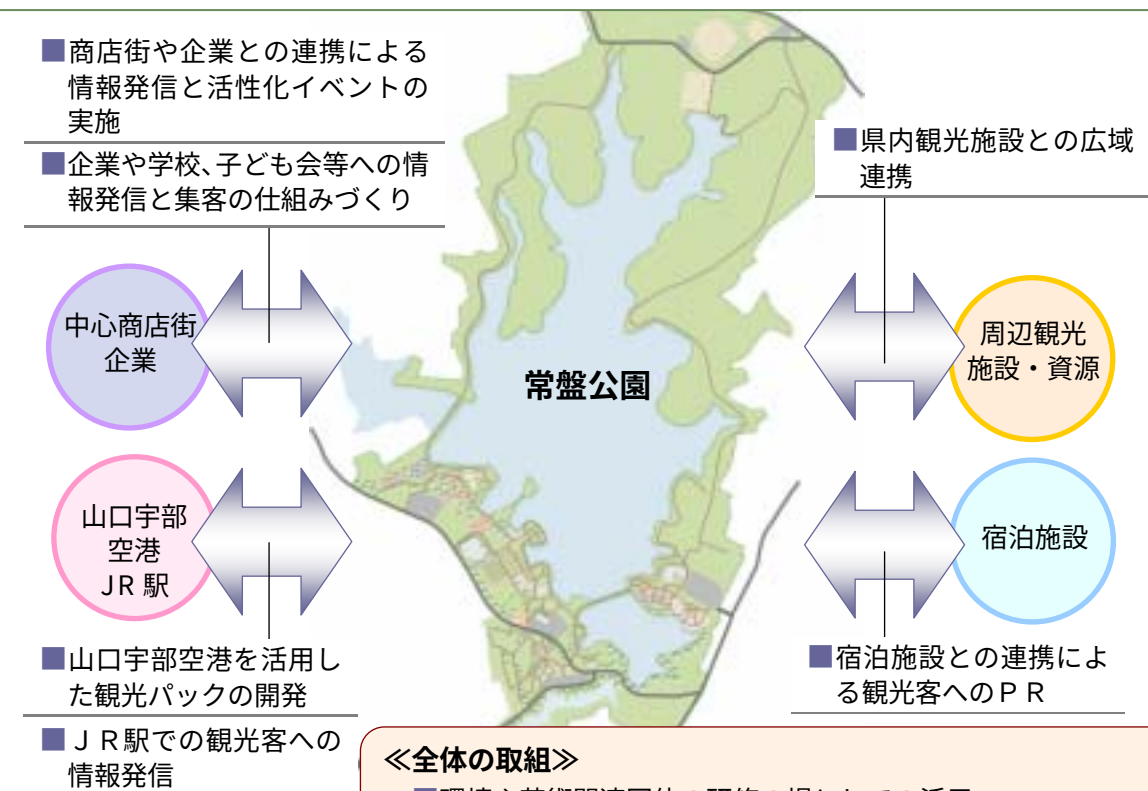
3) 広域的な連携と情報発信の施策体系

周辺との立地関係と利用者特性を踏まえ、常盤公園の集客と魅力向上に向けて、戦略課題に対する取組を以下に示します。



◆広域的な連携と情報発信に関する取組

広域的な連携の取組展開図



《全体の取組》

- 環境や芸術関連団体の研修の場としての活用
- 「食」や花木のPRによる中高年の集客対策
- チラシや新聞による定期的な情報発信
- 雑誌やインターネットによる市外・県外への情報発信
- QRコードなどを活用した情報発信
- 広域スポーツ大会などの誘致による広域利用の促進
- スポーツ広場でのイベント情報の発信
- 旅行会社との連携による情報発信や観光ツアーの充実

■施策マトリックス

ゾーン別方針	環境 自然・環境の学び場	芸術 アートの種まき	スポーツ・健康 みんなの元気づくり	人・福祉 ときめきの支え合い	娯楽 遊びの思い出づくり	広域的な連携と 情報発信
【遊園地・動物園ゾーン】 市民と観光客が共遊し、にぎわいある“ときめき”公園づくり	・エコフェアの実施 ・来園者の休憩空間と花壇の設置 ・イベントでの使い捨て食器の利用抑制			・動物舎の清掃イベントの実施 ・動物サポート制度の実施 ・ボランティアガイドとの連携 ・ボランティアや活動を支援するサポート制度の導入 ・オストメイト付身障者トイレの設置	・キャラクターショーやパスポートデーなど、ファミリー層や子ども向けイベントの実施 ・ストリートライブの実施 ・遊具施設の定期的な更新 ・動物とのふれあいイベントの実施 ・動物の行動展示に向けた動物舎のリニューアルの検討 ・イルミネーションイベントの拡充 ・若者の活動の場となるコンテスト・パフォーマンスの実施	・県内観光施設との広域連携 ・宿泊施設との連携による観光客へのPR ・JR駅での観光客への情報発信 ・商店街や企業との連携による情報発信と活性化イベントの実施 ・チラシや新聞による定期的な情報発信 ・雑誌やインターネットによる市外・県外への情報発信 ・企業や学校、子ども会等への情報発信と集客の仕組みづくり
【芸術・文化ゾーン】 彫刻や熱帯植物、宇部の歴史とふれあう参加型の“ときめき”公園づくり	・身近な園芸種やサボテン関連商品の販売 ・心潤う植物観賞施設の充実	・魅力ある彫刻鑑賞空間づくり ・所蔵彫刻の企画展示 ・彫刻作家とのふれあいイベントの実施 ・市民参加型のアートイベントの実施 ・子どもたちと彫刻とのふれあい機会、学習機会づくり ・芸術・歴史の学習の推進 ・環境や芸術関連団体の研修の場としての活用 ・「UBEピエンナーレ」の全国的PRの強化 ・デザイナー作品やアートイベントによる若者の集客		・アウトサイダーアートの制作や展示の機会づくり ・彫刻の清掃イベントの実施 ・ボランティアガイドとの連携 ・ボランティアや活動を支援するサポート制度の導入	・ときわミュージアムのレイアウトの検討 ・彫刻や植物に関連した土産の開発 ・若者の活動の場となるコンテスト・パフォーマンスの実施 ・石炭記念館での宇部の歴史紹介	・県内観光施設との広域連携 ・宿泊施設との連携による観光客へのPR ・山口宇部空港を活用した観光パックの開発 ・JR駅での観光客への情報発信 ・商店街や企業との連携による情報発信と活性化イベントの実施 ・チラシや新聞による定期的な情報発信 ・雑誌やインターネットによる市外・県外への情報発信 ・QRコードなどを活用した情報発信 ・旅行会社との連携による情報発信や観光ツアーの充実
【自然・環境ゾーン】 自然の安らぎを感じ、憩いのある“ときめき”公園づくり	・季節の花木の保全・育成・創出 ・エコフェアの実施 ・公園内施設・設備への新エネルギーのモデル的導入 ・常盤湖の継続的な水質調査による水環境の改善 ・常盤湖周辺の休憩空間と一体的な花壇の設置 ・環境学習の推進 ・環境や芸術関連団体の研修の場としての活用 ・教育・学習と連携した研修の場としてのキャンプ場などの活用促進		・健康増進のためのフィールドアスレチックなどの設置検討 ・周遊園路のユニバーサルデザイン化 ・レンタサイクルの導入検討 ・サイクリングコースの整備の検討	・市民活動拠点としての既存施設の活用 ・各施設やトイレなどのバリアフリー状況の情報発信 ・ボランティアや活動を支援するサポート制度の導入 ・障害者の働く場づくり ・障害者や高齢者等を支援するスタッフの育成 ・高齢者等への車椅子の貸出 ・ボランティアガイドとの連携 ・園内マップの活用	・さくらまつりやしょうぶまつり、フラワーフェスタなどの季節の花木を活かしたイベントの実施 ・椿やペリカンなどのスポンサー開拓 ・宇部の各種特産品の連携による土産物販売 ・定期的なフードパークの開催 ・白鳥やサボテンをモチーフとしたキャラクターグッズ開発 ・地元特産のこだわり料理や郷土料理の販売 ・常盤湖を視対象としたベンチやイスの設置 ・イベント時における親水空間と一体となったオープンカフェの設置 ・若者の活動の場となるコンテスト・パフォーマンスの実施 ・花絵アートイベントの実施 ・施設・工作物等のデザイン性の向上	・県内観光施設との広域連携 ・宿泊施設との連携による観光客へのPR ・山口宇部空港を活用した観光パックの開発 ・JR駅での観光客への情報発信 ・商店街や企業との連携による情報発信と活性化イベントの実施 ・「食」や花木のPRによる中高年の集客対策 ・企業や学校、子ども会等への情報発信と集客の仕組みづくり ・チラシや新聞による定期的な情報発信 ・雑誌やインターネットによる市外・県外への情報発信 ・旅行会社との連携による情報発信や観光ツアーの充実
【スポーツゾーン】 みんなが健康で、笑顔がつながりあう“ときめき”公園づくり			・駅伝・ロードレースなど、周遊園路を活用した市民の健康づくりの場としての利用促進 ・市内の各種スポーツ大会の実施 ・健康増進を図る周遊園路への距離表示板の設置 ・駐車場の整備の検討 ・健康増進のためのフィールドアスレチックなどの設置検討		・公園内施設をめぐるウォーキングコースの看板設置	・広域スポーツ大会などの誘致による広域利用の促進 ・スポーツ広場でのイベント情報の発信

IV. ときめき実行プラン

1. 遊び“ときめき”イベントプラン

(1) 取組の視点

各ゾーンの基本計画であげられているイベントに関する取組について、以下の視点により、連携しながら、遊び“ときめき”イベントを実施します。

【取組の視点】

- 遊園地・動物園ゾーンにおける集客力を高めるイベント
- 芸術・文化ゾーンにおける参加型のイベント
- 自然・環境ゾーンにおける季節を活かしたイベントや環境に関するイベント
- スポーツゾーンにおける健康づくり・スポーツイベント
- キャンペーン期間における連続的なイベント

(2) 具体的な取組

①集客力を高めるイベント

キャラクターショーやパスポートデーなど、ファミリー層や子ども向けイベントの実施

休日や夏休み、春休み期間におけるキャンペーンにおいては、来園者の増加を図るため、キャラクターショーやヒーローショーのイベントなど、ファミリー層・子ども向けのイベントを実施します。

また、ときわ遊園地の遊具が乗り放題になるパスポートイベントを実施します。



＜常盤公園：サマーフェスタ＞

若者の活動の場となるコンテスト・パフォーマンスの実施

ストリートライブの実施

音楽やダンスなどの若者のパフォーマンス活動を披露する場として、イベント広場やストリートを活用し、市民の参加企画型のイベントを実施します。



＜常盤公園：ストリートライブ＞

イルミネーションイベントの拡充

イルミネーションコンテスト形式のTOKIWAファンタジアは、平成21年度に実施したペットボトルのギネス挑戦により、多くの来園者が訪れており、今後も企業や子ども会などとの連携を図りながら、イルミネーションイベントを拡充し、冬のイベントのブランド化を図ります。



＜常盤公園：イルミネーションイベント＞

②季節を活かしたイベントや環境に関するイベント

さくらまつりやしょうぶまつり、フラワーフェスタなどの季節の花木を活かしたイベントの実施

4月のさくらまつりやフラワーフェスタ、6月のしょうぶまつり、11月の菊花コンクールなど、各季節のキャンペーンに合わせて、季節の花木を活かしたイベントを実施し、リピーターの増加を図ります。



＜常盤公園：さくらまつり＞

エコフェアの実施

エコフェアでは、常盤公園が環境のモデルとなるように、環境の取組を体験したり、実践できるイベントを実施します。また、環境に配慮したイベントにするため、使い捨て食器の利用抑制やカーボンオフセットなどに取り組みます。



＜事例：エコまつりによるごみ分別（広島市）＞

⑤市民をターゲットとしたイベント

駅伝・ロードレースなど、周遊園路を活用した市民の健康づくりの場としての利用促進

小中学生やスポーツ団体を対象とし、1月～2月にかけてときわ公園周遊園路を使って、駅伝大会やロードレースを継続的に実施します。



＜常盤公園：ロードレース＞

(3) 実行プラン

1年間を通じて、連続的にキャンペーンを実施するとともに、夏休みや春休み及びゴールデンウィーク期間中は、子どもやファミリー層を対象としたイベントを集中的に実施します。

<キャンペーン>

取組	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ときわ公園 春のキャンペーン												
Early Summer キャンペーン												
TOKIWA ファンタスティックサマー												
ときわ公園 秋のキャンペーン												
TOKIWA ファンタジア												

<イベント>

ゾーン	取組	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
遊園地・動物園 ゾーン	キャラクターショーやパスポートデーなど、ファミリー層や子ども向けイベントの実施	サマーフェスタ											
		キャラクターショー											
		ぶちのりパスポート											
	ストリートライブの実施												
	動物とのふれあいイベントの実施												
	イルミネーションイベントの拡充												
	エコフェアの実施												
	動物舎の清掃イベントの実施												
	若者の活動の場となるコンテスト・パフォーマンスの実施												
芸術・文化 ゾーン	彫刻作家とのふれあいイベントの実施	UBEビエンナーレ											
		ふれあいイベント											
	市民参加型のアートイベントの実施												
自然・環境 ゾーン	さくらまつりやしょうぶまつり、フラワーフェスタなどの季節の花木を活かしたイベントの実施	さくらまつり											
		しょうぶまつり											
		菊花コンクール											
		フラワーフェスタ											
	エコフェアの実施【再掲】												
スポーツ ゾーン	花絵アートイベントの実施												
	駅伝・ロードレースなど、周遊園路を活用した市民の健康づくりの場としての利用促進												

2. 観て触れて、“ときめき”体感プラン

(1) 取組の視点

各ゾーンの基本計画であげられている体験型・参加型の取組について、以下の視点により、来園者が観て触れて、心がときめくための活動・整備を行います。

【取組の視点】

- 遊園地・動物園ゾーンにおける動物とふれあう取組
- 芸術・文化ゾーンにおける彫刻や宇部の歴史とふれあう取組
- 自然・環境ゾーンにおける季節の花木とふれあう取組
- 参加型、体験型の活動、イベントなどのソフト展開からふれあいの空間づくりへ展開

(2) 具体的な取組

①動物とふれあう取組

動物とのふれあいイベントの実施

◆動物園ガイドツアーの実施

てくてく公園マップの動物園コースを活用しながら、白鳥へのえさやりなど、普段では体験できないガイドツアーを実施します。

◆ふれあい動物の実施

子どもや大人を対象とした、体験型の動物とのふれあいイベントを実施します。動物とふれあうことによって、動物園の新しい楽しみ方を子どもや来園者に伝えます。

動物サポート制度の実施

現在でも、農家の野菜などを動物のえさとして支援していただいている人がいます。動物をサポートする仕組みとして、個人や団体を対象とした動物サポーター制度を実施します。



<てくてくときわ公園動物マップ>



<常盤公園：ふれあい動物>



<常盤公園：リスザル>

<常盤公園：シロテテナガザル>

②彫刻や宇部の歴史とふれあう取組

市民参加型のアートイベントの実施

市民が常盤公園の彫刻を身近なものに感じることができるよう、彫刻とのふれあいイベントや市民参加型のアートイベントを実施します。ボランティア団体と連携しながら「彫刻清掃イベント」など彫刻の管理を通じてふれあうことができるイベントにも取り組みます。



<常盤公園：アートワークショップ>

歴史・芸術の学習の推進

◆てくてく公園マップの活用による学習機会

てくてく公園マップの活用により、歴史・芸術などが学習できるコースを設定し、学習機会の創出を図ります。



<てくてくときわ公園歴史マップ>

③季節の花木とふれあう取組

花絵アートイベントの実施

しょうぶまつりや菊花コンクールなど、高齢者の来園が多く見込まれるイベントに合わせて、花絵アートイベントや花絵アート教室を企画し、季節の花を使った参加型の絵画教室と展示会等の開催を検討します。高齢者だけでなく、子どもから大人まで幅広い年齢層の参加が見込まれます。



<事例：にいがた花絵プロジェクト>

(3) 実行プラン

イベントや学習・教育を通じて、来園者が観て触れることができる取組から実施し、長期的にはソフト展開と一体となった空間づくりを進めます。

取組の優先順位	★動物を観て触れる（遊園地・動物園ゾーン）	★彫刻を観て触れる（芸術・文化ゾーン）	★季節の花木を観て触れる（自然・環境ゾーン）
【初期的な取組】 参加型、体験型の活動、イベントによるソフト展開	・動物とのふれあいイベントの実施 ・動物サポート制度の実施 ソフト展開から動物園の価値向上を図り、動物舎のリニューアルを検討 	・彫刻作家とのふれあいイベントの実施 ・市民参加型のアートイベントの実施 ・子どもたちと彫刻とのふれあい機会、学習機会づくり ・歴史・芸術の学習の推進 ・石炭記念館での宇部の歴史紹介 イベントや学習・教育を通じて、彫刻や歴史に対する来園者意識を向上 	・さくらまつりやしょうぶまつり、フラワーフェスタなどの季節の花木を活かしたイベントの実施 ・花絵アートイベントの実施 既存の花木を保全しながら、祭りやイベントを実施し、市民の手作りによる自然環境空間の創出 ・季節の花木の保全・育成・創出
【空間づくり】 鑑賞空間、ふれあい空間の創出に向けたハード整備	・動物の行動展示に向けた動物舎のリニューアルの検討 動物とのふれあいイベントなどで、遊園地・動物園ゾーンの集客や価値向上を図りながら、動物の行動展示に向けた動物舎のリニューアルを検討します。  <事例：旭山動物園行動展示>	・魅力ある彫刻鑑賞空間づくり ・心潤う植物観賞施設の充実 彫刻や環境のイベントや学習機会の創出により、来園者意識の向上を図りながら、彫刻の再配置による魅力ある空間づくりや、植物観賞施設の整備・改善を検討します。 <彫刻：つなぎ石ー作品3>  <熱帯植物室>	

V．管理運営方策

1．管理運営体制の方向性

現在、常盤公園の管理運営は、宇部市と常盤遊園協会（遊具については、明昌ネットワーク）が行っていましたが、一体的な管理運営を図るために、より効率的な組織への見直しを行い、総合的なプロデュースのもとに諸施策を展開していきます。

（１）庁内組織の統合

常盤公園に関する庁内体制としては、平成 22 年度（2010 年度）から、公園緑地課、常盤公園活性化推進室、緑と花と彫刻の博物館管理課を公園整備局に一本化し、経営的な視点をもってより効率的な管理運営を行います。

（２）常盤遊園協会の改革

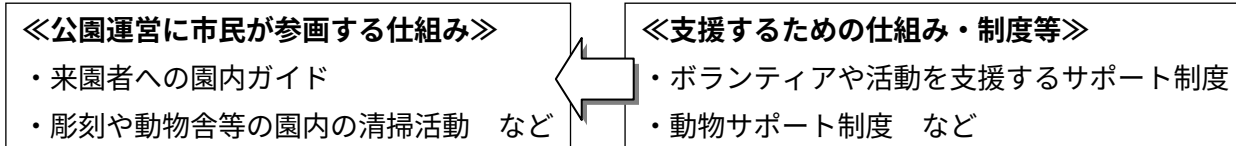
現在の管理運営状況などを十分に検証し、組織の改革を検討します。

（３）明昌ネットワークとの連携

遊園地ゾーンでのイベント実施などにおいて連携を図り、これまで以上に来園者の増加と遊園地機能における収入の確保に向けた取組を推進します。

2．市民参画やボランティア団体との連携

今後の公園運営にあたっては、市民参画や、ボランティア団体等の連携が必要です。市民活動等により参加する手法を確立し、それらを支援するための仕組みや制度により、市民参画体制を構築します。



3．障害者の働く場づくりの整備

現在の常盤公園の運営において、福祉の面では、花づくりや除草作業などで障害者の働く場となっています。今後も、知的障害者の技能習得訓練の場として活用するとともに、常盤公園の一部施設の管理に障害者の働く場づくりを整備します。

用語解説

見出し	語句	解説
あ行	アウトサイダーアート	専門的な美術教育を受けなかった人々による、既成の芸術の流派や傾向・モードに一切とらわれることなく自然に表現した美術作のこと。また、知的障害、精神障害、視覚障害などの障害を持った人によって作成された美術作品という意味でも使われる。
	アンケート	社会のいろいろな事柄や人々の意見等を調べるために、多くの人に同じ質問を出して回答を求める調査方法。
	イルミネーション	球、発光ダイオード、光ケーブルなどにより淡い光の光源を集め、電飾看板・風景・人物などをかたどり、夜間における風景などを作り出す装飾。
	UBE ビエンナーレ	2年に一度開催される国際レベルの彫刻展で、市民はもとより県外からも多くの観光客が訪れる。前年に出品作品を公募し、400点近い全出品作品の模型展示を行い、その中から選ばれた作品20点が翌年常盤公園彫刻野外展示場に展示される。
	オストメイト	大腸がんや膀胱がん等が原因で、人工肛門や人工膀胱を使用している人のこと。
	オープンカフェ	歩道や広場などを利用して屋外に設置されたカフェ。
か行	行動展示	動物園において「動物本来の行動を生き生きと見せる」ような展示手法。
さ行	新エネルギー	技術的に実用化段階に達しつつあるが、経済性の面から普及が十分でないもので、石油に代わるエネルギーの導入を図るために特に必要なもの。風力、バイオマス、太陽光、小中水力、地熱などの再生可能なエネルギー。
	生物多様性	生態系・生物群系または地球全体に、多様な生物が存在していること。

見出し	語句	解説
た行	ターゲット	標的、目的のこと。
は行	バリアフリー	高齢者・障害者などが社会生活をしていく上で障壁（バリア）となるものを除去（フリー）すること。物理的、社会的、制度的、心理的な障害、情報面での障壁などすべての障壁を除去するという考え方。
	ヒーリング	心身に働きかけて生命力・自己治癒力を引き出し、治癒・回復を促す効果。
	ブランド	顧客吸引力、独自性を強調したシンボルのこと。ここでは、常盤公園が持つ様々な有形・無形の地域資源、資産により、多くの人を引き付けるイメージのこと。
	ポテンシャル	可能性としてもっている能力、潜在的な力のこと。
	ボランティア	自発的に自由意思でなんらかの奉仕行為などを行うこと。
ま行	モチーフ	動機、題材のこと。
や行	ユニバーサルデザイン	あらかじめ、障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすい都市や生活環境をデザインする考え方。
ら行	リニューアル	装いを新たにすること。
	リピーター	一度訪れた人が、何度も同じ地に訪れること。
	リユース	再使用すること。
わ行	ワークショップ	地域づくり活動において、住民参加の手法として、参加者自身が地域の課題を把握、共有化した上で、地域の将来像を話し合う手法。